

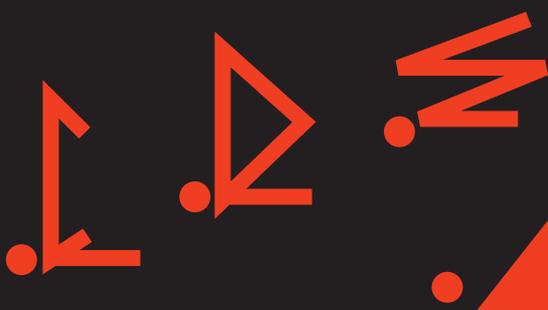
the 1st. INSATSUSHIKO CUP

Sapporo Student's Design Competition

社団法人 印刷紙工

第1回 札幌学生デザインコンクール

作品集



総 評

デジタルクリエイトが主流となった昨今、どうしても、パソコンの機能やソフトのオペレーティング能力が重視され、本来、クリエイティブにとって、最も重視されるべき「コンセプトワーク」や、表現するための「自由な想像性」が後退する傾向にあることは否定できません。これは、実際のプロの現場でも同様であり、クリエイティブ現場のデジタル化は、便利さとスピードをもたらした代償として、本来、大切にすべき想像力と思考力を奪い去ってしまった感があります。

デザイン教育の場においても、それは同様ではないでしょうか。もちろん、学校だけの責任ではありませんが、これは加速する一方のデジタル化がもたらした社会的弊害とも言え、デザインに関する心がまえを教える時間が、ソフトのオペレーションを習得する時間に喰われてしまっている、と表現するとわかりやすいかもしれません。とはいえ、この場でデジタルを全て否定する訳ではありません。デジタルがもたらしたメリットは、クリエイティブ業界全体にとって非常に大きなものがありますし、新しい表現、新しいメディア、新しいデジタルクリエイターたちを生む原動力となりました。

しかしながら、ここでみなさんに考えていただきたいことがあります。それはデジタルとは何か、そしてデザインとは何か、です。デジタルとは一種の表現するための道具です。決して目的ではありません。そしてデザインも、また同様です。デザインすることはあくまで一つの表現方法であるに過ぎません。つまり、デジタルという道具を使い、デザインという手法を用いて、「何か」を創りあげるわけです。ここで大切なのはその「何か」なのです。「何か」をクリエイトすることが、究極の目的となるわけです。

今回、公益法人である印刷紙工として初の試みとなった「第1回 札幌学生デザインコンクール」ですが、事前に3つのテーマを出ささせていただきました。このテーマに沿った形で、学生のみなさんに自由にポスターをデザインしてもらったわけですが、はっきり言って「狭いようで広いテーマ」だったと思います。例えば、地球温暖化ひとつ取り上げてみても、あらゆる側面があります。温室効果、京都議定書、生態系、排気ガス、フロンガス、二酸化炭素、森林伐採、海面上昇、エネルギー、化石燃料、エコ運動…等々。その中から、何を選び、何をモチーフとするか、またそこにどのようなメッセージをこめるか、実際に制作し始めるまで、学生のみなさんもかなり悩んだと思います。実を言えば、この悩むプロセスが最も大切な時間なのです。作品の最終的な善し悪しのほとんどを決定するのは、まさに制作し始める前段階（下ごしらえ）の時なのです。

意外と思われるかもしれませんが、これは事実です。ほとんどのみなさんが、思いついたものを、まずどんどん形にして、さまざまな手を加えていく作業、言うなればデザインの推敲を重視していると思います。しかし、ここで先ほど述べたことを思い出してください。デジタル技術を使うこと、デザインをすること、それらは決して「目的ではない」と言いました。大切なのは「創ること」ではなく、「何を何のために創るか」を思考することであり、ポスターという媒体を使って、どんなテーマを、誰に、どのように訴えていくかをじっくりと練り上げることにあるのです。そして、デザインのプロをめざすみなさんに1つヒントを差し上げますが、結果的に、自分が手がけたデザインが、「それを見た人をどのような心情にさせ、どのようなアクションをおこさせたいか」までを考えるようになれば、プロのクリエイターに一步近づくことができます。

今回応募された作品は全部で44点。どれも学生のみなさん1人ひとりの思いが反映され、個性にあふれた興味深い作品ばかりでした。その中から、ここまで述べてきた考え方に照らしながら審査し、最終的に各賞が決定しました。選考基準は、主に、1. テーマがしっかりと表現されているか、2. 訴求ポイントが的確でわかりやすいか、3. ポスターとしてのデザイン機能を果たしているか、の3点で、中には審査員同士で評価が分かれるものも多く、激戦とまではいかずとも、最終決定までには相当の時間を費やしました。当然、賞には限りがありますから、残念ながら選外となってしまった作品も多くあります。ここで、みなさんをお願いしたいのは、選外となった人は、なぜ選ばれなかったかを、佳作、入賞の人は、上位に入選した作品と自分の作品を比較して、何が足りなかったかをじっくりと考えていただきたいということです。考えるためのヒントは、既に述べた通りです。

最終的に各賞の決定とともに、作品に優劣をつける格好になりましたが、例えば佳作と入賞の差はほんのわずかなところもありますし、入賞と優秀賞以上の作品間にも、圧倒的な差がついたとは言えません。わずかな差が大きな差とも言えますが、あるきっかけがあれば、その差はグッと縮まるはずですよ。

今回のコンテストをきっかけに、プロのクリエイターをめざすみなさんの一層の努力と奮起を願ってやみません。

平成17年9月 審査員一同



最優秀賞

北海道芸術デザイン専門学校

日野 真希子さん



テーマ

地球温暖化問題について

タイトル

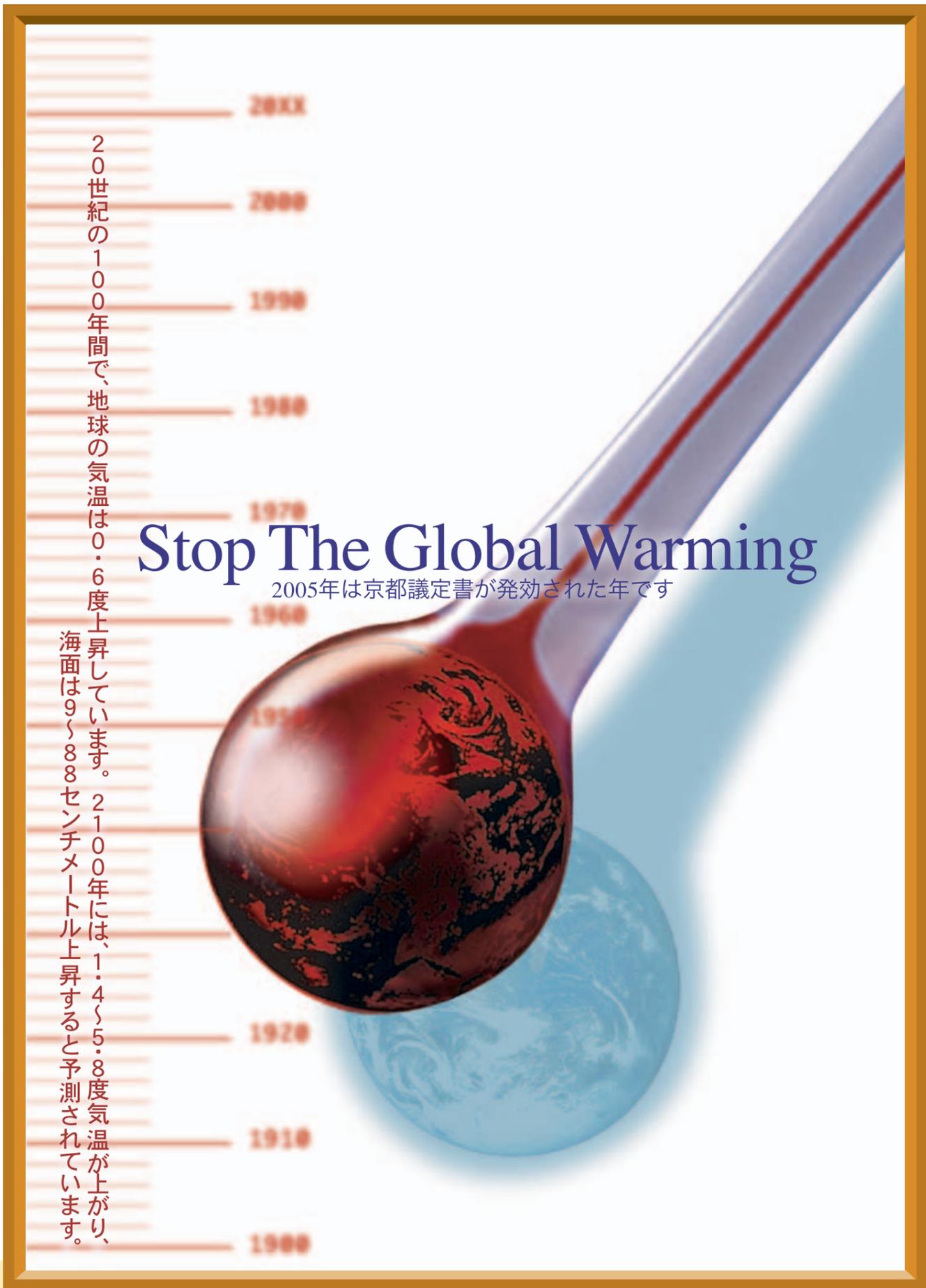
Stop The Global Warming

製作趣意

このまま温暖化が進むと海面が上昇し、地球に人間が住めなくなるという事を、地球を温度計に見立てて描きました。

講評

「Stop The Global Warming. 2005年は京都議定書が発効された年です」
地球温暖化をテーマにした作品。何といても、温暖化をイメージした温度計と地球を重ね合わせるアイデアが素晴らしいと思います。朱に染まった地球が温暖化の危機を実感させます。キャッチコピーと具体的なデータを示したサブコピーの情報量、バランスもほどよくまとまっていて良い感じですし、温度計チックな目盛りと文字で表現された年号表記も大きなポイントになっています。あえて欲を言えば、ポスター面全体から発するパンチがちょっと弱いかな、という印象です。モチーフの着目点だけで満足せず、さらに効果的にアピールする表現法を考えてほしかったと思いますが、今回応募された作品の中では、アタマ1つ抜けていた感があります。



Stop The Global Warming

2005年は京都議定書が発効された年です

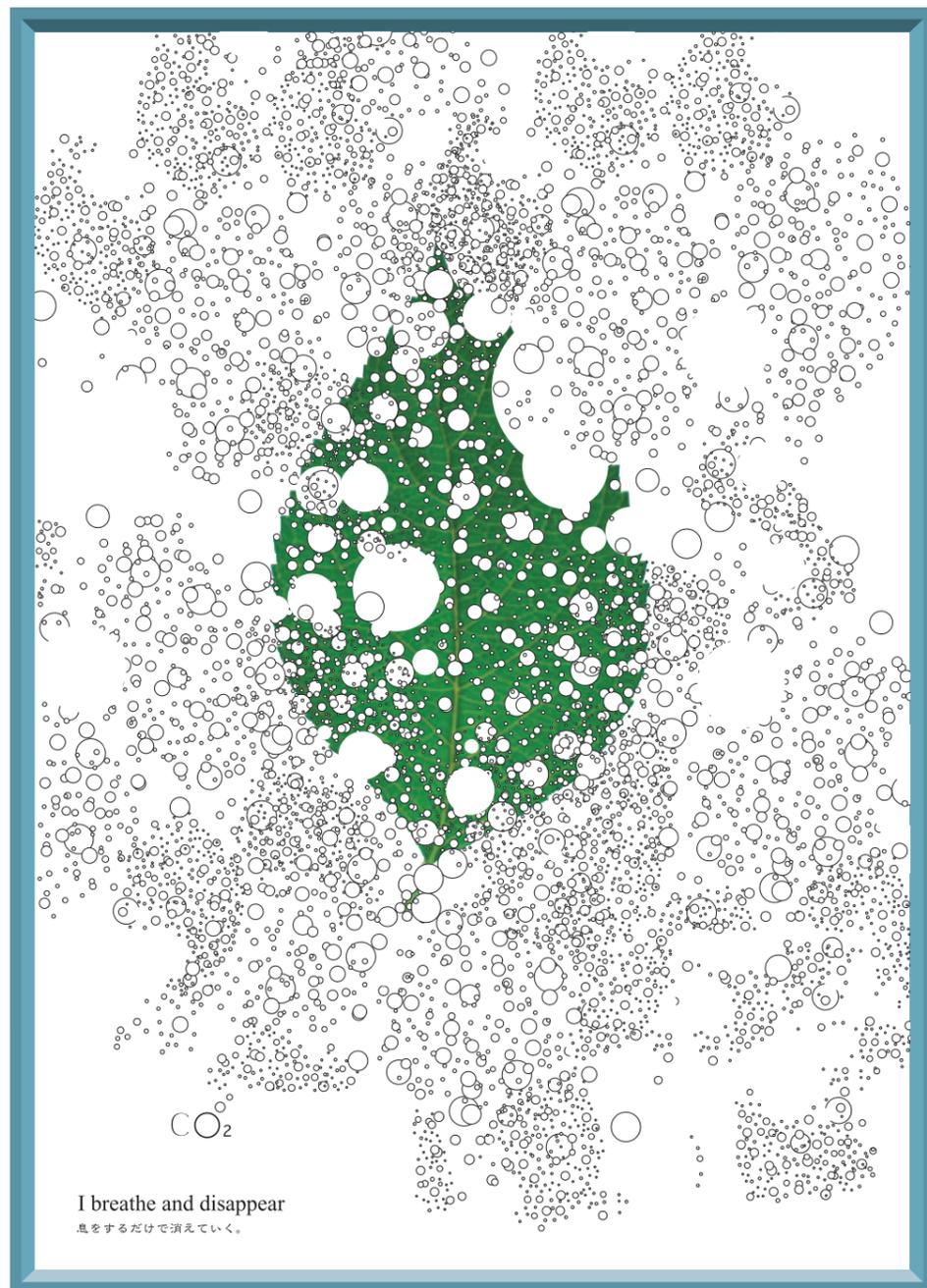
20世紀の100年間で、地球の気温は0.6度上昇しています。海面は9〜88センチメートル上昇すると予測されています。2100年には、1.4〜5.8度気温が上がり、





優秀賞

北海道芸術デザイン専門学校
新居 拓朗さん



講評

「I breathe and disappear息をすることで消えていく。」
これも地球温暖化をテーマにした作品ですが、1枚の葉だけをモチーフに選び、それ以外は徹底したモノトーンで創り上げるアイデアが、まず秀逸。コピーが小さくあしらわれているので、一見しただけでは何のポスターかわからない、と思われがちですが、大小の円（CO₂の分子的表現？）で細かく切り取られた葉は、美しく、しかし確実に何かを蝕まれて（溶けて？）いくような危機感が漂っており、CO₂の文字に目がいった途端、制作者のメッセージが瞬時に理解できます。まずヴィジュアルで引きつけ、最後まで見せる。環境啓蒙ポスターとしては、出色の出来映えだと思います。

北海道芸術デザイン専門学校
山田 奈未さん

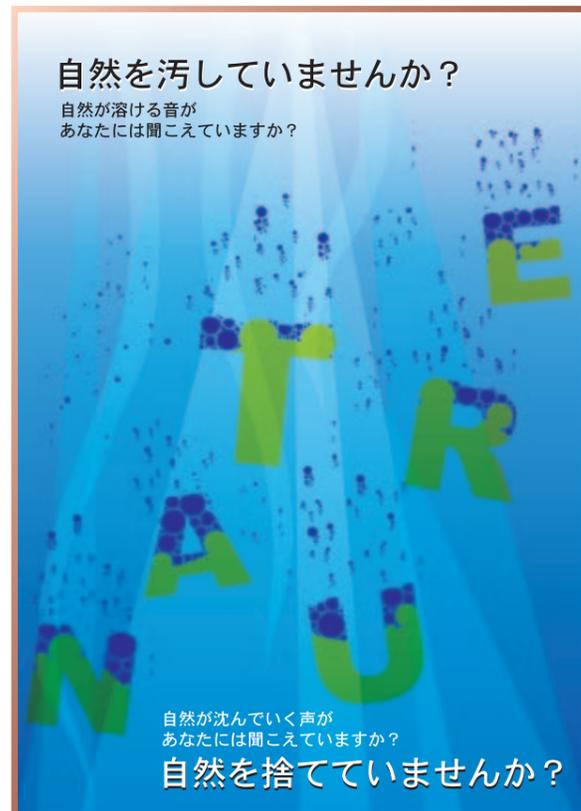
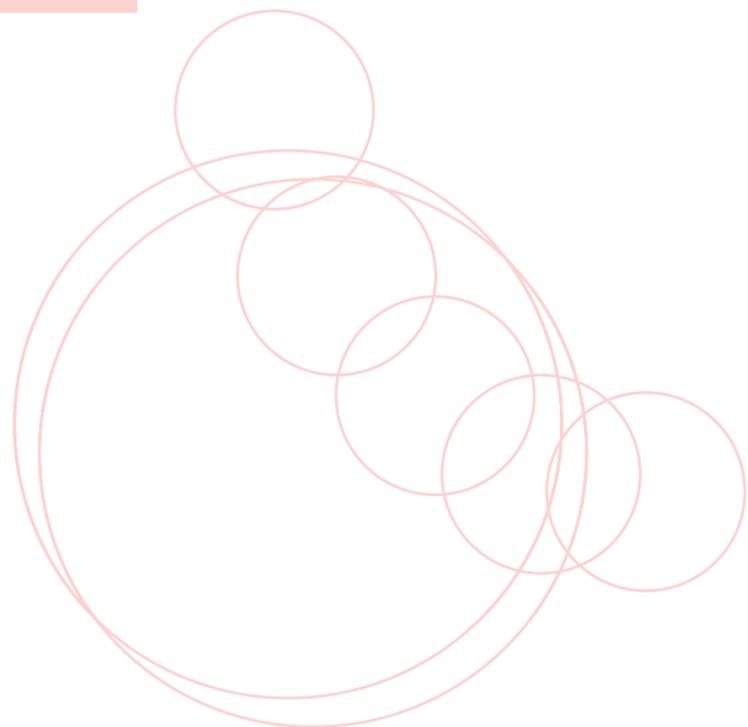


講評

「Do you end antiearthquake measures ?地震対策はお済みですか？」
古風な日本画を用いた、自然災害への備えを啓蒙する作品。この手の作品は、ともすれば奇をてらただけのイメージで見られてしまいがちですが、倒れかかるタンスの角度や人物の表情、ポーズなど、コミカルさと緊張感がバランスよく表現されていて、思わず目がいきます。昔の絵画では、よくこのようなポーズで人物が描かれていることからヒントを得たのでしょうか？深読みすれば、地震などの天災はその昔からわが国の悩みのタネだった、みたいなストーリー性も伺えます。今回の応募では自然災害をテーマにしたものが意外に少なかったのも、注目を浴びたということも、プラス材料だったと思います。



入賞



札幌デジタル専門学校 久保 智史さん



北海道芸術デザイン専門学校 高橋みのりさん



札幌デジタル専門学校 高橋 悠子さん



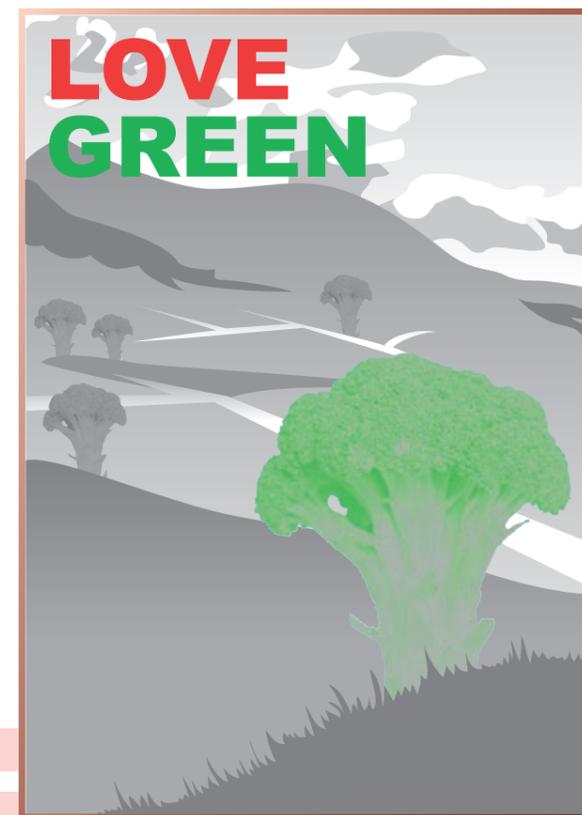
北海道芸術デザイン専門学校 長居麻理子さん



北海道芸術デザイン専門学校 成田 唯さん



北海道芸術デザイン専門学校 餅田奈津美さん



札幌高等技術専門学校 横田菜々子さん



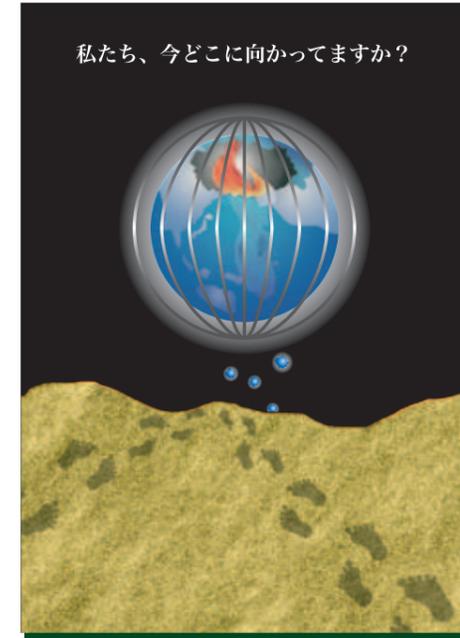
札幌高等技術専門学校
岩崎ともみさん



北海道芸術デザイン専門学校
萱場 里江さん

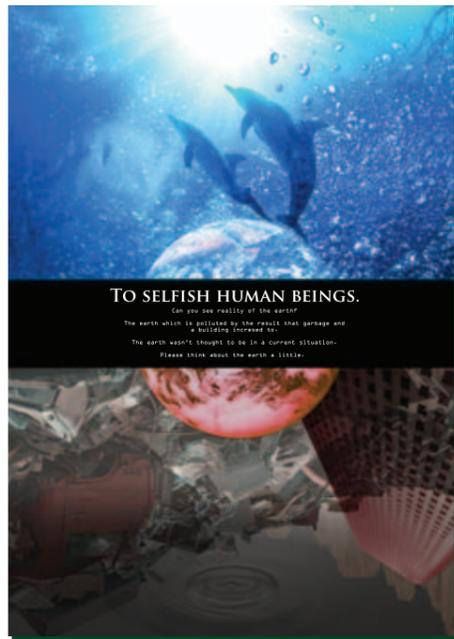


札幌デジタル専門学校
川元 梨奈さん

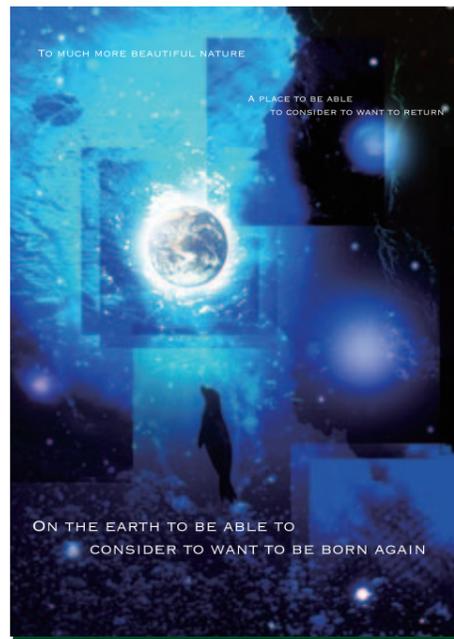


札幌高等技術専門学校
佐藤 麻未さん

佳作



北海道芸術デザイン専門学校
佐藤 優香さん



北海道芸術デザイン専門学校
高村真依子さん



札幌デジタル専門学校
高橋 悠子さん



札幌デジタル専門学校
中山 知宣さん



北海道芸術デザイン専門学校
福島 初実さん



北海道芸術デザイン専門学校
山本 達哉さん

